



今年度、東京都教職員研修センターで取り組んでいる教育課題研究における研究主題の一つである「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～深い学びにつながる授業づくり～」に関して、小学校・理科、中学校・社会、高等学校・国語及び外国語において、2年次の部員が授業者となって検証授業を行いました。主体的・対話的で深い学びは、1単位時間の中だけで取り組むのではなく、単元全体の内容や時間のまとまりの中で実現することが重要です。

【検証授業で実施している「深い学びを明確にした授業づくり」の流れ】

- ①単元や題材で育てる資質・能力を明確にし、児童・生徒の「**深い学びの姿**」を具体的に想定します。
- ②想定した「**深い学びの姿**」を引き出すことができるような単元（題材）の指導計画を立てます。
- ③授業の中で、児童・生徒のつぶやき、発言、記述、行動などをつぶさに観察しながら、想定した「**深い学びの姿**」に迫れるような授業を展開します。
- ④授業の中で想定した「**深い学びの姿**」を引き出すことができたか、資質・能力が身に付いたか、などを児童・生徒の具体的な学びの姿から検証し、改善に生かします。

研究の成果は、平成30年2月20日（火）の教育課題研究発表会（場所：東京都教職員研修センター）や東京都教職員研修センター紀要（平成29年度末発行）で実践例を紹介します。



【部員の受講記録より】

研究協議を通して、自分の話し方のくせなどについて客観的に捉えることができました。また、教材の活用の仕方にはいろいろなやり方があり、自分では気付かなかった考え方を学びました。生徒同士の対話を意識して授業を考えましたが、実際に班のメンバーに授業観察をしてもらい、アドバイスを聞くとまだまだ工夫できると思いました。視覚障害のある生徒が、「学習の核となる体験」をすることができるよう、今後も生徒と向き合っていきたいです。（特別支援教育・視覚障害）

【教授より】

今回授業をした部員は、2年間の授業研究を通して、授業者となるのが3回目です。これまでの学んできたことを生かして、授業を行いました。視覚障害のある生徒がイメージをもてるような様々な教材を準備し、生徒も集中して授業を受けていました。授業改善にはこれでよい、完璧ということはないので、更なる授業改善に向けて研究協議を重ねています。今回から、リーダー演習として部員がリーダー役になって協議を進めました。部員からの意見の引き出し方や助言の仕方等、多くのことを学んだようです。（特別支援教育担当教授 伴 亨夫）